

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年9月30日

事業所名 PARC(パルク)ひがしおおさか

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		お子さまにもわかりやすいように玩具の場所を写真等で視覚支援を行っている。	今後、時間や曜日等を提示できるようなツールを取り入れ、見通しを持って活動できるようにしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		利用終了後、営業終了後の清掃。お子さまに合わせた環境設定を行っている。	今後も継続をし、お子さまの活動の幅が広がるように環境設定を行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回が初回のため、保護者様のご意向を踏まえ今後の業務に活かしていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今回が初回のため、保護者様のご意向を踏まえ今後の業務に活かしていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナ禍のため対面の研修会に参加はできていないがwebにて定期的に参加している。	今後スタッフ間でも行っていけるようにする。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		適宜専門職と連携を図り、支援計画の作成を行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	△		最近、使用し始めた。	今後標準化されたツールを使用し、定期的に評価を行っていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		専門職から意見をもらい、活動に取り入れている。 活動中のお子さまの様子を共有している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		お子さまの中で遊びのブームがあるため、似たような遊びにはなるが少しずつ変化を出している。 固定化しないようにプログラムの提案を行っている。	今後も様々な遊びの挑戦して頂けるように、工夫を行っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝朝礼を行っているのでその場で情報共有を行っている。 また、療育に入る前にもプログラム内容の確認を行い保護者対応するスタッフとも共有を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日のお子さまの様子やプログラムの内容の振り返りを行っている。 次回の活動をどのような内容にするのか等の共有も行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		文章だけでなく、動画等を撮影し共有をし、検証・改善に努めている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		情報提供や行政・相談支援事業所との連携を図っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療的ケアが必要なお子様の通所実績がありません。 今後、適切に対応できるように連携を図ります。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要なお子様の通所実績がありません。 今後、適切に対応できるように連絡体制を整えます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		園の先生方と情報共有を適宜行っている。 園の担任の先生にご見学にきて頂き、活動の様子を見て頂いている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		園の先生方と情報共有を適宜行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		お子さまの様子を月1回書面にて報告を行っている。 相談支援事業所との情報共有を適宜行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍のため実施できていません
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	△		子ども部会に参加されている方からの聞き取り等に協力しています	今後積極的に参加していきたいと思います。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		来所された際に保護者の方とお話をお伺いする機会がある。 お伺いした内容をその場で活動に取り入れられる内容は活動に取り入れています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		来所された際にお話をお伺いしている。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		書面を使って説明を行っている。	ご質問を頂いたその場でお答えができるようにしていく。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画の説明を行い不足点などがないか伺い、同意を頂いている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		来所された際にお話をお伺いしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍の為にできていない。今後webにて保護者会を開催する予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		その場で対応が可能な申し入れに対しては行っている。難しい場合は保護者の方にお伝えをして次回来所された時に対応できるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回パルクだよりを発行し、お渡ししている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きの棚に保管しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の為にできていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事の提供を行っていない。今後、集団療育で食品を取り扱うときは事前確認を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		朝礼時と月末の2回共有の時間を設けている。事例集を作成し、事務所にて保管している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内研修に必ず参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		身体拘束が必要なお子さまの通所の実績がない。今後、必要性のあるお子さまに対しては、保護者の方・事業所内で協議し説明を行う。その後支援計画に記載する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。